

# 「トントンまなびたい」 指導スタンダード 「トントンの森 冬バージョン」

## 1 ねらい

- ・自分の力で最後まで頑張る。 ・友達と仲良く活動する。 ・雪の中でおもいっきり遊ぶ。
- ・自然の中で擬音語を見付ける。「しんしん・ふわふわ・きゅっきゅっ・ぎゅっぎゅっ・さらさら・べとべと・じゃわじゃわ・等」
- ・五感を生かして、おもしろい、きれい、ふしぎをたくさん見付ける。

## 2 展開

※ **1** ~ **5** は、森に表示された看板付近の活動場所

配時	○数字…子供の活動（予想される子供の姿） ●追加指導事項	・指導者の支援 ◇安全配慮事項
10分	<p><b>1</b> 雪の感触を味わう。 <b>感じるゾーン</b></p> <p>① 足（冷たい雪「きゅっきゅっ」、埋まる「ずぼっ」、など） 手（雪玉をつくらることができる雪、できない雪、など） 体全体（人型づくり、雪布団、雪のシャワー、ハイハイ、など） 顔（顔型づくり） ※これらの活動を通して雪の冷たさや感触を味わう。</p> <p>● ウェアに降る雪の結晶の形を見よう（気温が氷点下の日）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開始前に、服の袖とズボンの裾に雪が入らないかをしっかりと確認する。</li> <li>・ 雪は冷たいので、雪と長い時間触れ合うことを無理強いしない。</li> <li>◇ 吹雪や氷点下等の気象条件の場合は、雪と触れ合う時間を短くする。</li> </ul>
10分	<p><b>2</b> 冬芽を見る。 <b>学ぶ・感じるゾーン</b></p> <p>① <b>ホオノキ</b>（冬芽3cm以上・春に30cm以上の葉が5~8枚） ② <b>クロモジ</b>（丸い花芽と細長い葉芽がセットになっている） ③ <b>ヤマモミジ</b>（冬芽が枝先に2個並ぶ） ④ <b>オオカメノキ</b>（冬芽はウサギの耳の形）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬芽の違いのおもしろさを感じられるよう、観察する際に声をかける。</li> <li>◇ 枝からの雪の落下に気を付ける。</li> <li>◇ 木の幹の周りには、空間がある可能性があるため落下に気を付ける。（根廻雪）</li> </ul>
20分	<p><b>3</b> 急な下り坂を滑る。急な上り坂を上る。 <b>挑戦ゾーン</b></p> <p>① 先頭の人がりしり滑りで滑った道を、みんなで滑って長くする。 ● 滑り方（お尻、寝そべって、スーパーマン、など） ② 上り坂では、手や足を使いながら元気よく上る。 ● 坂道上り競争を楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 木や枝の近くを避けて、安全なコースを設定する。</li> <li>◇ 前の人が終わってから滑り始める。</li> <li>◇ 滑る道と上る道を分けて、ぶつからないようにする。</li> </ul>
10分	<p><b>4</b> 足跡やふんを探す。 <b>学ぶ・感じる</b></p> <p>① 足跡カードをもとに足跡を探す。 ※カードは、子供たちが指導者が持つ。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>ウサギ</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>キツネ</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>タヌキ</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>リス</b></p>  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p><b>カモシカ</b></p>  </div> </div> </div> <p>● ウサギのふんを探す。→ 小さくて丸い。紅茶のにおい。 ● カモシカのふんを探す。→ 小さくて丸い。一か所にたくさん。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の見つけた足跡とカードを見比べながら、足跡見付けを楽しむ。</li> </ul> <p><b>ウサギ</b> ちょん（前足）・ちょん（前足）・ぱっ（後ろ足一緒）。Yの字形の足跡が残る。</p> <p><b>キツネ</b> 前足と後ろ足が一直線（前足跡に後ろ足をつけるため）</p> <p><b>タヌキ</b> キツネよりもジグザグ</p> <p><b>リス</b> 前足一緒、後ろ足一緒なので、チョウのような形に見える。大きい方（後ろ足）がチョウの前翅、小さい方（前足）が後ろ翅</p> <p><b>カモシカ</b> 前足・後足とも形・大きさがほぼ同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ふんは、絶対に直接手で触れない。周囲の雪ごとすくって観察する。</li> </ul>
5分	<p><b>5</b> 杉の木をみんなで押して、枝の雪を落とす。 <b>挑戦・感じるゾーン</b></p> <p>① みんなで杉の木の幹を囲み、力強く押す。雪のシャワーを浴びることができたら成功。→簡単に倒れない杉の木の生命力を感じる。</p> <p style="text-align: center; color: blue;">中間道より、不動グレンデ上部に出て、終了</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供同士の声かけを大切にする。</li> <li>・ 子供の頑張りを大いに認める。</li> <li>・ 落ちてくる瞬間がシャッターチャンス</li> </ul>

# トントンの森

## 指導スタンダードマップ



雪上の道(冬)は、通常のコース(春・夏・秋)とは多少違います。木の枝等に巻いてある**ピンクテープ**を目印、または、**人の歩いた跡**を進んでください。



### はじめの会

- ◇トントンの森の紹介
  - ・四季の話(冬をクローズアップ)
  - ・目印看板を紹介(写真を見せながら)
- ◇がんばること
  - ・自分の力で最後までがんばる(泣いてもいい)
  - ・仲間と仲良く遊ぶ
  - ・雪の中で体全体を動かして思いっきり遊ぶ
- ◇約束
  - ・指導者の前には行かない
  - ・学びを後ろのお友達に伝えよう
- ◇セーフティトーク
  - ・木からの落雪に注意
  - ・指導者の見える範囲内で活動する
  - ・吹雪等、悪天候の場合は活動時間を短縮、又は中止する。
  - ・帽子・手袋・服装・長靴の確認
    - ※ 襟元・袖・腹・足首等より雪が直接体に触れないように。

### バリエーション

指導スタンダード以外にも、いろいろなバリエーションが！  
何度も何度も「トントンの森を楽しもう」！

- ◇生き物をさがす
- ◇葉っぱをさがす
- ◇足跡やふんをさがす
- ◇雪が作る形をさがす
- ◇氷が作る形をさがす
- ◇みんなで探検
- ◇グループで探検
- ◇ペアで探検
- ◇1人で探検

◇夜に探検 **新しい発見がいっぱい！**

### 振り返り

どんな発見をしたかな？ どんな思いになったかな？

- ・見つけたことをたくさん話そう。
- ・今はどんな気持ちかな。
- ・約束は守れたかな。
- ・自分ががんばったこと、お友達と一緒にがんばったことをお互いに褒めあおう。
- ・自然に遊んでもらえたこと、連れて来てくれた先生、一緒に楽しく遊んだ仲間に「ありがとう」
- ・また来てね

### 子供は「発見の王様」

◇見つけたことをその場で具体的にほめてあげよう！  
指導者「いろんな足跡をたくさん見つけたね」

### 子供は「感動の王様」

※感動=強い印象を受けて深く心を動かすこと  
◇子供が感動したことを共感しよう！身近な物に置き換えても！  
子供「この冬芽の形がとてもおもしろいな」  
指導者「本当だ、おもしろいな。〇〇みたいだね」

### 子供は「不思議の王様」

◇子供の疑問を大切にしよう！  
→ 年齢や理解力にあわせて言葉で、内容を伝えよう！  
子供「雪って何？」  
指導者「冬は寒くて雨が凍って雪になるんだよ」  
→ 時にはアニミズムで伝えよう！  
子供「どうしてこんなに冬芽の形はおもしろいの？」  
指導者「冬芽のかわいい妖精が、みんなとお友達になりたいんだ」

**「大人は子供の共感王」になろう！**